

博物館における負の記憶の表現について  
—戦争・災害・社会運動等の事例から—

寺田匡宏

1. 負の記憶の表現をめぐる問題

- ・語り得ない記憶
- ・共同体にとって語ることの困難

2. 負の記憶への関わり方のあり方の模索

- ・リアリティからアクチュアリティへ
- ・アクチュアルな関わり方

3. リアリティとしての表現の問題

- ・阪神大震災記念人と防災未来センター
- ・建設の経緯
- ・現在の展示内容の問題点

展示: 事実の分析、検証の欠如

「再現」映像

映画: ドラマ仕立て 事実でないことを事実であるように表現する装置

織り込まれた実写映像による効果

4. アクチュアルな表現の事例

- ・沖縄戦の表現

沖縄平和祈念資料館 平和の礎 佐喜真美術館 ガマ

- ・ホロコーストの表現 ホロコースト・メモリアル

- ・阪神大震災の表現 「いつかの、だれかに」展

5. まとめ

【参考文献】

[記憶と表現]研究会『訪ねてみよう戦争を学ぶミュージアム／メモリアル』岩波ジュニア新書、2005年

笠原一人・寺田匡宏編『記憶表現論』昭和堂、2009年

寺田匡宏「戦争・災害の記憶とその伝承」日本文化人類学会編『文化人類学事典』丸善、2009年